

令和6年3月21日号

御幸が原小だより

～1年間お世話になりました～



発行 宇都宮市立御幸が原小学校

校長 稲澤 正明

栃木県宇都宮市御幸ヶ原町 53-2

TEL 028-663-0358

e-mail mihara-e@ueis.ed.jp



学校 HP QRコード

桜の開花も目の前に迫り、季節の移り変わりを感じます。改めて1年間を振り返りますと、様々な行事や出来事がありましたが、「あっという間の1年間であった」というのが率直な感想です。しかし、そのような中でも印象深く残っているのは、みはらっ子たちの純粋さ、素直さ、そして行事に向かう時の集中力でした。また、保護者や地域の皆様には、学校経営を側面から力強くバックアップをしていただけたことに改めて感謝申し上げます。特に、感染症による急な学級休業への対応、また学習や環境整備に関わるボランティア活動、登下校時における毎日の見守り活動、学校行事への支援等での対応では大変お世話になりました。春休み期間中に児童たちが今年度の学習の復習や新年度に向けての準備をするように、私たち教職員も今年度の様々な取組を振り返り、新年度に向けて御幸が原小学校が児童・保護者・地域の皆さんにとって、より魅力的な学校となるよう準備を進めて参ります。新年度につまましてのみはらっ子の健やかな成長のためにお力添えをいただければ幸いです。

祝！卒業

学校行事での責任ある行動・児童会での主体的な活動・後輩への優しい気遣い等々素晴らしい活躍してくれた本校が誇る6年生が卒業しました。練習の段階から真剣な取り組みで、呼びかけの歌声などは鳥肌の立つようなものでありましたが、本番では更に素晴らしく、小学校生活の集大成と言えるようなとても立派な式となり、たくさんの人たちの涙を誘っていました。また、在校生代表で参加した5年生も前日の準備から本番まで、とても立派でした。呼びかけにもあった、6年生からのバトン（最上級生としての自覚と責任）をしっかりと受け取り、早くも最上級生としての自覚が芽生えてきたように感じています。



在校生による「6年生歓送」

卒業式の前日には在校生全員による「6年生歓送」を行いました。4年生が花のアーチを準備し、6年生への感謝の気持ちを改めて伝え、卒業の門出を祝いました。



「みはらスタンプラリー」開催

3月4日・5日のなかよしタイムと昼休みに運動委員会主催で行いました。主に冬場の体力づくりをねらいとして、校庭では「トラック1週ダッシュ」、体育館では「目隠しおに」や「サッカードリブル」「バスケシュート」「雑巾がけ」などの種目にたくさんの児童が挑戦しました。



あいさつ運動

今年度2回目のあいさつ団による取組です。あいさつ団は有志により結成されています。今回は朝の時間に各教室を回ってあいさつ運動を行いました。写真は職員室に来て挨拶をしている様子です。



雑 感

冒頭でも述べましたように、1年間を振り返ると、みはらっ子たちの純粋さ・素直さがとても印象的でした。なぜ、このように感じているのか？それは子供たちの行動変容からです。私は3つの大きな成長を感じています。1つめは挨拶です。「挨拶は返すものではなく自分からするもの」「挨拶は人の心と心を結ぶ魔法の言葉」たくさんの子供たちが共感をしてくれ、進んで挨拶ができるみはらっ子がとても多くなりました。2つ目は掃除です。「掃除が上手な人は心のきれいな人」時間一杯、精一杯取り組む児童が増えました。3つ目は「ありがとうございます」が言える児童が増えました。何かしらの言葉かけをすると、自然にこの言葉が返ってきます。おかげさまで、児童に話しかけることがとても楽しく、幸せな気持ちになります。見える学力と見えない学力があるとすれば、この3つは道德教育の目標にあるような、見えない学力のくくりかもしれません。私たち大人は、ややもするとテストの点数などにどうしても目がいきがちですが、私は子供たちが夢や目標をもった時、この見えない学力が見える学力を押し上げてくれると思っています。もちろん、やがて社会に出たとき、周囲と調和的に生き、自己実現をするための基礎になるべきものだとも思っています。声掛けが変わると子供が変わる。環境が変わると子供が変わる。純粋で素直な子供たちに胸を張ってものが言える。そんな教員・大人、そして学校でありたい。子供たちの行動変容から、自分と学校の取組を振り返り、新年度に備えたいと思います。